



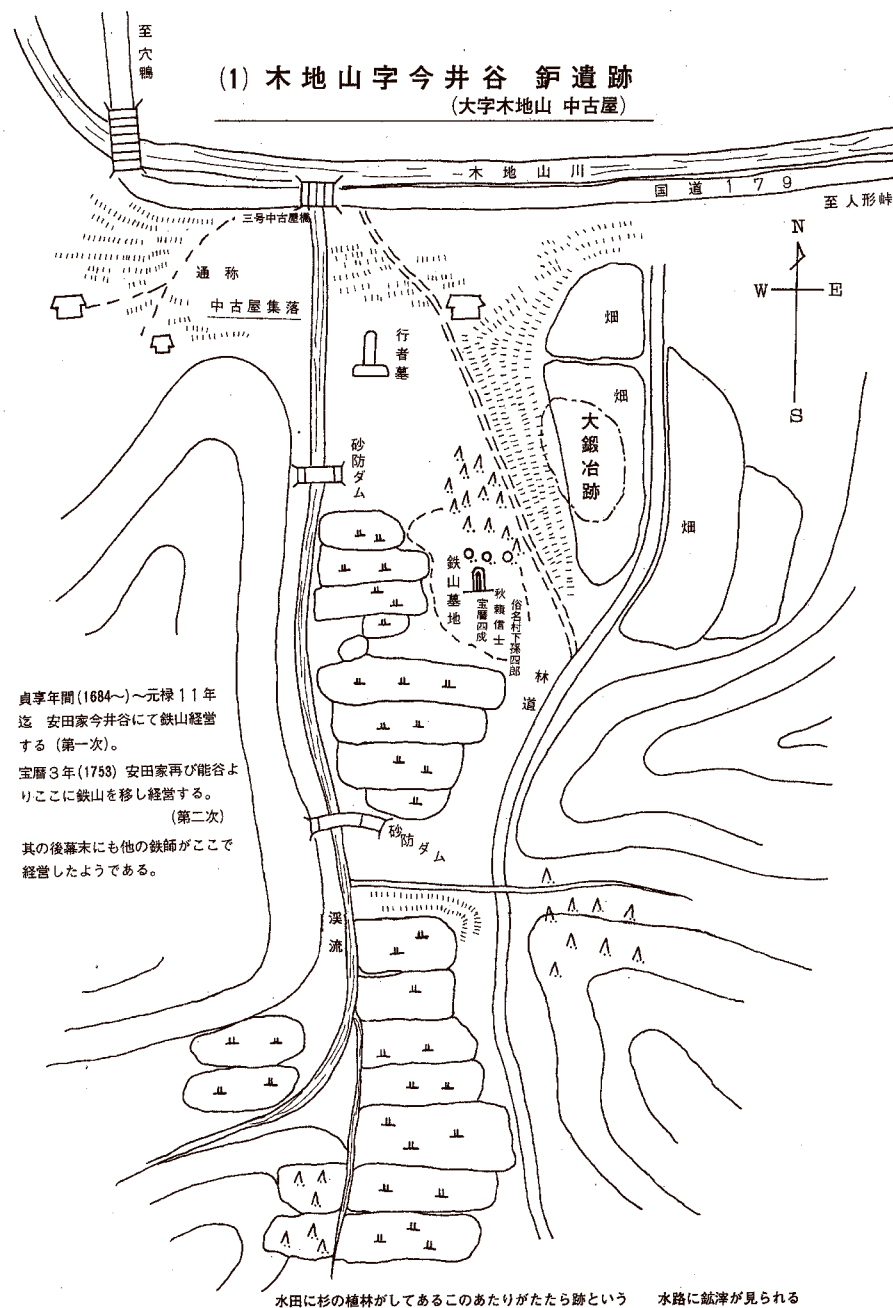
② 古民家見学 (木地山・小椋般展氏宅) 町指定・保護文化財 (昭和51年7月1日指定)

小椋家は、江戸末期に鉄山業に関係し、地区の頭役を務めていたと伝えられる旧家。
屋根はかや葺き。因幡型の入母屋で、裏側の出も大屋根の葺おろしである。幕末の普請といわれるだけに、ケヤキなどの大きな木柄や工作の具合などに精巧さが見られる。現在はカミ手に縁を廻し、土間に張り出し部分を持った五間取りになっているが、当初は入側柱を取り込んだ広間型三間取りだったと考えられる。
入側柱を利用して縁や押し入れにしている例は、日野郡の山間部に見られるが平野部には少ない。



③ タタラ物語 タタラ従事者の墓 (行者墓)

木地山中古屋砂防ダム付近にある。
貞享年間(1684～)、安田家六代目茂右衛門が、加谷の段から今井谷に鉄山経営を始めた(今井谷第一次)。
七代目の時代が元禄年間引き続き、一のかやと大柿に鉄山を寄せ集めて経営を行った。
宝暦3年(1753)、八代目が再び今井谷に鉄山を移した(今井谷第二次)。
おそらく、幕末にも第三次の経営がなされたと思われる。タタラ経営の諸般の条件が整っていた地だったのであろう。竹田地域のタタラ遺跡のほとんどは、安田家の鉄山経営に関わるものと思われる。



貞享年間(1684～)～元禄11年迄 安田家今井谷にて鉄山経営する(第一次)。
宝暦3年(1753) 安田家再び能谷よりここに鉄山を移し経営する。(第二次)
其の後幕末にも他の鉄師がここで経営したようである。



⑥ 下畑発電所 (100年経過発電所)

今年で100年余が経過した「下畑発電所」は、水力発電所としては中国電力管内で3番目に古く、1世紀にわたって現役で電力を供給しているのは珍しいという。
同発電所は1911年7月に運転を開始。田代川から取水し、長さ420メートルの水路を通して水槽にため、148メートルの有効落差を利用して水圧鉄管に流す毎秒0.333立方メートルの水の力で発電している。最大出力は392キロワットに上り、一般家庭にして840世帯分の電力を供給しているという。



タタラの里 竹田を支える 森の物語

平成24年11月4日(日)



タタラの里・竹田を支える 森の物語

■主催／NPO法人サカズキネット
■共催／竹田地域協議会
■特別後援／新日本海新聞社

このイベントは、森林をみんなで守り育てるための「森林環境保全税」を活用して行うものです。



スケジュール

- 8:00～8:30 受付…三朝町役場 駐車場
8:45～9:00 開会式…竹田公民館
9:00～12:00 ① 枝打ち体験…穴鴨地区
② 古民家見学(木地山・小椋般展氏宅)
…町指定・保護文化財(昭和51年7月1日指定)
③ タタラ物語…タタラ従事者の墓所見学
12:00～13:00 ④ 昼食…田代地区農業構造改善センター
13:00～14:00 ⑤ 植栽体験…林道南三朝線
14:00～15:00 ⑥ 100年経過発電所見学…下畑発電所
15:00～15:30 閉会式…竹田公民館

森は
海の恋人

